



# 鈴鹿のレガシー

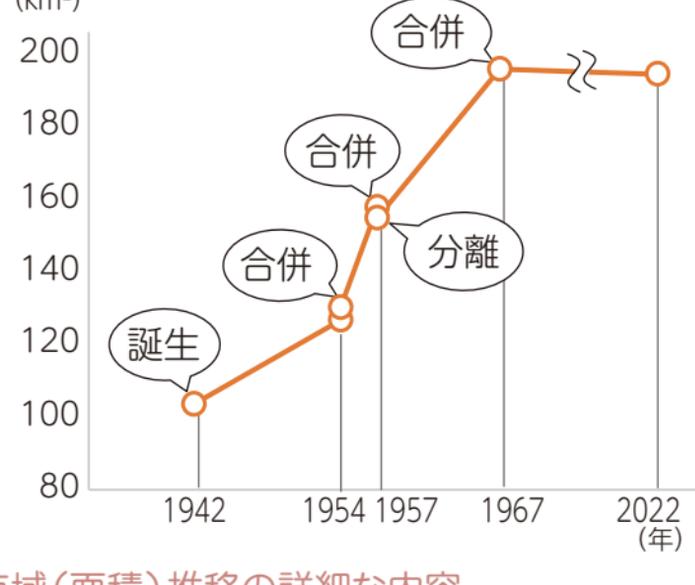
～データでみる80年～

1942(昭和17)年12月1日に誕生し、今年で市制施行80周年を迎える鈴鹿市。80周年にちなみ、このコーナーでは本市の発展を振り返ります。

## 鈴鹿市の市域

鈴鹿郡と河芸郡の2町12カ村が合併して誕生した当時の鈴鹿市の面積は、103.60km<sup>2</sup>でした。その後、隣接する村などの編入合併などにより市域を拡大してきました。さらには、国土地理院による面積値の改定や公有水面の埋め立てを経て、現在は194.46km<sup>2</sup>(80年で約1.9倍)となっています。

### 市域(面積)推移のグラフ

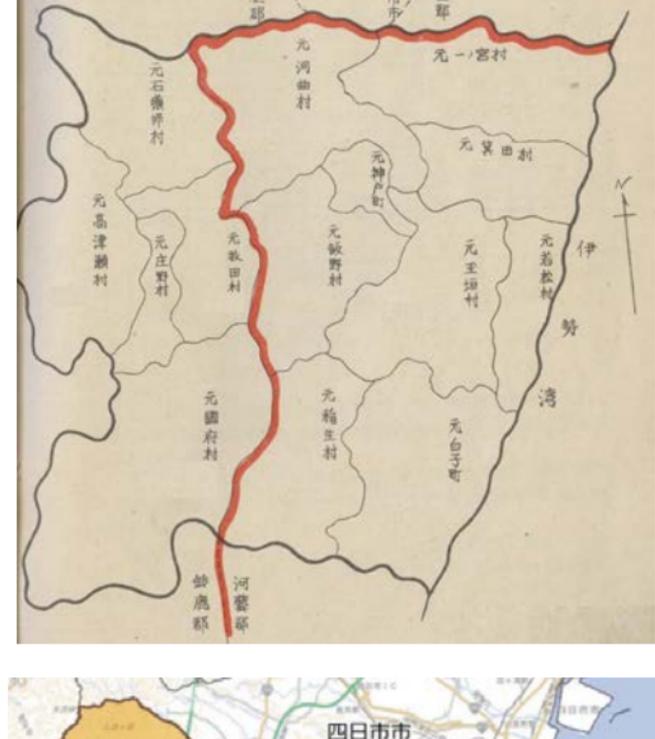


### 市域(面積)推移の詳細な内容

とき	面積 (km <sup>2</sup> )	備考
1942(昭和17)年12月1日	103.60	市制施行時
1954(昭和29)年8月1日	126.73	河芸郡栄、天名、合川村合併
1954(昭和29)年12月1日	130.23	亀山市井田川地区の一部合併
1957(昭和32)年4月15日	157.86	鈴鹿郡三鈴村の大部分合併
1957(昭和32)年6月15日	165.28	鈴鹿郡鈴峰村の一部合併
1957(昭和32)年6月15日	154.88	鈴鹿市小岐須町、小社町分離
1967(昭和42)年4月1日	195.88	鈴鹿郡鈴峰村合併
現在	194.46	

出典：鈴鹿市統計要覧(平成31年度)

### 地図で見る市域の変化



市制施行時の鈴鹿市全域  
(出典：鈴鹿市大観昭和25年版)



現在の鈴鹿市全域



### モータースポーツお宝探検隊 vol.12

サーキットでのレース観戦に欠かせないのが場内実況放送です。語り手であるレースアナウンサーは順位やタイムのみならず、さまざまな情報を正確に伝えることが求められます。

田中康夫さん(66歳 東員町)は、そんなレースアナウンサーを陰で支えるオフィシャルとして、なんと48年のキャリアを持っています。きっかけは、中学・高校生の頃、レースが好きで何度も投稿していたラジオ番組でした。熱い思いが番組パーソナリティの矢橋昇さん(当時の鈴鹿サーキットレースアナウンサー)の目にとまり、鈴鹿サーキットでのアシスタントとして抜擢されたのです。

当時は今と違って、映像やタイムモニターもなく目視で実況しなければなりませんでした。加えて周辺取材や規則の勉強などで、膨大なデータとノウハウを積み上げなければならない中、気がつけば半世紀近い時が流れていました。

「オフアがある限りこれからも続けていきたいですね」と語る田中さん。今も鈴鹿サーキットの歴史とドラマを放送室からお届けしています。



▲鈴鹿サーキット放送室にて

■中野能成(鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

### キーボード

「春の訪れを感じるものは何ですか?」その問いに皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。梅や桜などの開花、雪解けや春一番といった自然現象、卒業式や入学式といった季節の行事など、きっと皆さんそれぞれに感じるものは異なると思います。

私は、特に「鈴鹿の春の訪れ」を感じるものとして、以前に何度か取材したことがあるコウナゴの水揚げが真っ先に思い浮かびます。残念ながらここ数年は禁漁が続いていますが、仲買人の威勢の良い競りの声が、まるで春の訪れを告げるかのように耳に残っています。

四季の変化に富む日本では、それぞれの季節に旬の味覚はありますが、特に春の味覚には人の心を踊らせる特別な意味合いがあるような気がします。

折しも、鈴鹿市では地産地消を推進するためのロゴマークを作成しました。この春は地元の旬の食材でおいしい春を感じてみてはいかがでしょうか。(正)